

連携先	Amazon RDS (Oracle, Aurora)	利用シーン	データ連携基盤/ETL	業種	電力
-----	--------------------------------	-------	-------------	----	----



## 電力自由化に伴い急増する需要家 利用予測と実績を即時連携し安定供給

### 株式会社エナリス

東京都千代田区神田駿河台2-5-1 御茶の水ファーストビル14F  
URL <http://www.eneres.co.jp>

※需要家：電気やガスの共有を受け使用している消費者  
※低圧電力：契約電力が原則として50kW未満の電力

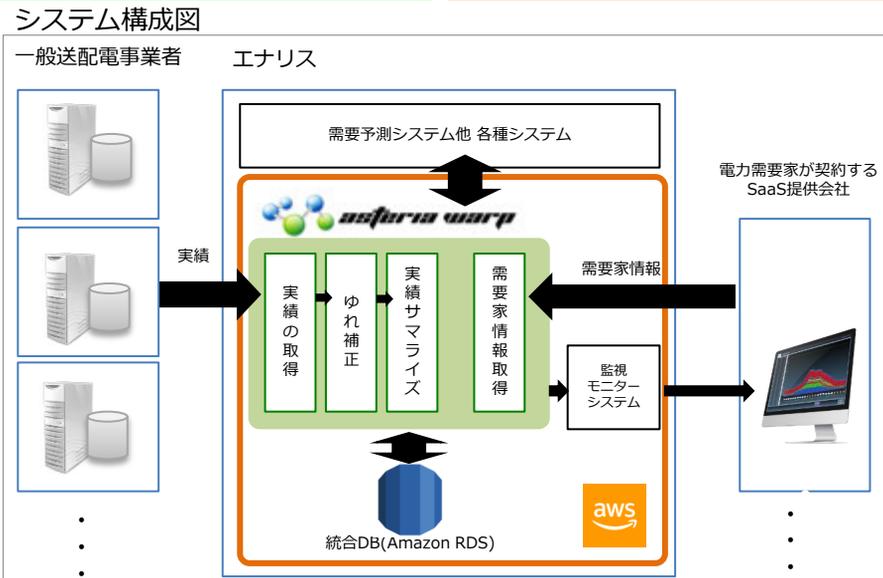


### 導入背景

株式会社エナリスは創業事業である小売電気事業者向け業務代行を通じて、小売電気事業に関する実績を積み上げてきた。事業採算性の調査やプランニングといった、シミュレーションが難しい電力ポートフォリオの運用戦略の策定、運営に関する申請手続き、24時間365日の需給監視などを支援している。電力は貯めることができないため、個々の需要家毎に同社独自アルゴリズムで利用予測値を算出し、それに基づき電力を調達。30分に1度、各需要家ごとに利用実績値と予測値の差異を比較し、足りなければ追加調達、多ければ売却を行う。これらの処理はこれまで各種システムとの個別連携スクラッチ開発により実現していたが、2016年4月より低圧電力が自由化されることとなり、需要家数が一気に増大することが予想されたため、EAIの導入を検討することとした。

課題	導入	効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 100以上の自作APIを使い、個々のシステム連携を属人的に実施していたため、システム連携の全体把握が困難に</li> <li>● 電力会社から実績値を取得する際には、クライアント認証が必要だが、一般送配電事業者毎に個別プログラムを実行し認証、実績取得すると実行管理が煩雑化</li> <li>● 電力会社各社から取得する実績データ (ZIPデータ2.5GB) の解釈にゆれが発生</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各需要家毎に利用実績と予測値の差異比較を行うためのデータ連携基盤として ASTERIA Warpを導入。結果は監視モニターシステムに引き渡し、グラフ化</li> <li>● ASTERIA Warpのクライアント認証切替機能により、1フローで複数送配電事業者の実績を1度に取得</li> <li>● ASTERIA WarpはAWS上で実装 Amazon RDS(Oracle, Aurora)との連携も実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ASTERIA Warpの安定稼働とAWSの柔軟性により、需要家数が変動しても全需要家に対し30分毎の予実差異比較を24時間365日確実に実現</li> <li>● フローサービス管理コンソールで連携フローの全体把握が可能に</li> <li>● 新規システム連携開発の生産性向上</li> <li>● 属人性を排除でき運用工数も削減</li> </ul>

- ### ASTERIA Warp選定理由
- 他のEAI製品と比較し、ファイル操作コンポーネントが充実
  - クライアント証明書の切替えが1フロー内で可能
  - メンテナンス性に優れた分かりやすいUI
  - ASTERIA Warpテクニカルパートナーである株式会社信興テクノミストに対する信頼
- ### 今後の予定
- 今後は他の事業も含め、新規連携処理は ASTERIA Warpを開発標準に
  - 過去スクラッチ開発したシステム連携もリプレースのタイミングにて置き換えを順次検討



お客様から一言  
ASTERIA WarpのココがGood!

株式会社エナリス  
ご担当者様A

フローサービス管理コンソールのUIが良いので、全フローの死活監視を容易に行えます。また運用の属人性も排除でき、担当者が休むとわからないということも起きなくなりました。

株式会社エナリス  
ご担当者様B

ASTERIA Warpはファイル操作コンポーネントが充実しており、またフローデザイナーのアイコンの組み合わせを手軽に変更できるため、プロトタイプをつくる際にも便利です。